第２回今後の県立美術館運営検討委員会 議事概要

１　開催概要

(1)　日　時：令和８年 10 月 26 日（月）14：00～16：00
(2)　会　場：朱鷺メッセ　新潟コンベンションセンター　会議室 203・204
(3)　出席者：委員５名中、５名出席（うち１名 web 出席）

２　開会

３　議事概要

(1)　事務局説明

配付資料により説明を行った。

(2)　主な委員意見

事務局説明後の意見交換における主な委員意見は以下のとおり。

ア　美術館の役割について

○　「美術館全体」と、その中での「公立美術館」、さらにその中での「県立美術館」について、それぞれ位置付けを整理してほしい。

イ　企画展の開催時期について

○　令和７年度の万代島美術館の実績をみると、観覧者が少ない冬の時期に支出が多い企画展を開催しており、目標値の半分以下の観覧者数で大幅なマイナス収支となっている。企画展を開催する時期の工夫が必要なのではないか。
○　展覧会の開催時期はたしかに大事なことだが、実施したい時期が他の美術館により埋まっていることもあり、地方に展覧会を持ってくるのは難しい。

ウ　美術館の収支について

○　実行委員会形式の展覧会は、観覧料の多くが共催者へ配分されており、適正な配分になっているかが問題。その基礎的なところを整理し、収支管理を適切に行う必要がある。
○　共催者との資金配分については、県の収益を上げるために交渉すると、地方の新聞社やテレビ局は企画展を持ってこないリスクがあり、駆け引きは簡単ではないところ。ある程度収益が上がらないとしても、年齢や美術の知識を問わず、誰もが楽しめる展覧会を新潟県民に提供するということであれば、意味が出てくると思う。
○　新潟は条件闘争で厳しい状況かもしれないが、なんとか交渉し、条件不利地でもどうすべきかを考えることが大事。
○　文化は収支改善して自助努力で行うのは難しい。公的機関や住民が支援し、そこに文化が花開くという共通認識を築けないと前に進めない。また、美術館は文化だけの縦割りで考えるのではなく、横断的にまちづくりの中で考えなければならない。

○　教育分野で「美術館は無料にすべき」との意見もあるが、入場料などは徴収すべき。文化にはお金がかかるため、対価が発生することを教育の場面で伝えていく必要がある。
○　財政状況が厳しい時代で、収支改善は今まで以上に求められるが、だからこそそのような声に応えながら、文化を伝えていくことが大事。そのためにどうしていくべきか、県民に共有していくことが大事。

エ　教育普及について

○　教育普及について、他の美術館の取組を参考にすると思うが、教育普及は様々な形があり、美術館が建てられた時期の流行により実施するための設備や体制も異なる。他の美術館の取組を真似るだけでは長続きしないので、まずは職員の意見を聴き、培ったものや支えてくれた人のことも考え、今の時代に合った方法に対し、どれだけ予算や人員を費やすのかをよく考えて実施したほうがよい。
○　教育普及は土日に開催することが多いプログラムがあるため、複数人いないと厳しい。予算だけではなく人員も必要。

オ　展覧会について

○　万代島美術館で開催中の展覧会「大どろぼう展」は、他会場での開催時には子どものためだけの展覧会だと思っていたが、決してそうではなかった。アピールの方法は重要であると改めて感じた。
○　地域の収蔵品を生かして展示を行うことは、質を維持して経費を抑えるという意味で一番確実であるため、積極的に考えたほうがよい。
○　不登校の子や障害者など、なかなか美術館に足を運ぶことができない人にも展覧会を観てもらい、「楽しい」や「温かい」などの感想を持ってもらえたら、お金には換えられない価値が出てくると信じている。

カ　民間活力の導入について

○　今後コンセッションや指定管理などを検討するにあたり、新潟県ではどうかわからないが、例えば清潔かつ安全に、県民のための文化振興を行うなど、県が求める運営を行うことができる企業を地方で探すのは難しい。

４　閉会